



NEWS

No. 184
July 2020

(公社) 日本工学アカデミー広報委員会

Office : 〒 101-0064

東京都千代田区神田猿樂町二丁目7番3号

HKパークビルⅢ 2F

Tel : 03-6811-0586

Fax : 03-6811-0587

E-mail : academy@ej.or.jp

URL : <http://www.eaj.or.jp/>

NEWS

第8回(通算第24回)定時社員総会

前常務理事 大江田 憲治 / *KENJI OEDA*

本年はコロナ感染の拡大があり、会員が一堂に会する形での総会開催が困難となったため、採択については、議決権行使を基本とする総会となりました。6月2日(火)13時からの実際の総会は、ホテル東京ガーデンパレスに数名の幹部会員と事務局員が詰め、その他の主要メンバーや会員は、ZOOMシステムでの参加となりました。

まず、正会員800名に対して議決権行使数は511名となり過半数401名を超えることが報告され、総会の成立が確認されました。

引き続き、阿部会長が議長に選出され、具体的な総会の議案審議に移りました。なお、議事録署名人としては、阿部会長のほか永野博専務理事と長井常務理事が指名されました。第1号議案、2019年度事業報告については、中村会長代理から、その概要の説明があり、会員数の増加、支部活動の活性化、政策提言委員会の各プロジェクトの進捗状況、国際委員会活動、ジェンダー委員会活動、更には、科学技術イノベーション2050委員会の活動開始などの成果が紹介され、議決権行使数の報告があり、本案は原案どおり承認されました。

続いて、第2号議案、2019年収支決算についても、中村会長代理から概要説明があり、黒字化の定着、及び、将来の大型案件のための特定費用準備資金の設置などが紹介されました。これを受け引き続き、日野光兀監事から監査報告がなされ、その後、議決権行使数の報告があり、本案は原案どおり承認されました。

続いて、第3号議案、役員を選任については、永野博専務理事から新たな理事、監事候補者について説明があり、議決権行使数の報告があり、本案件も原案どおり承認されました。また、これら3件の審議事項のあと、2020年度事業計画と収支予算について中村道治会長代理から説明がありました。

最後に、阿部会長から、退任に際し2期4年を振り返って、ご挨拶があり、本年総会は閉会となりました。なお、閉会后、2018年から2020年の間に会員推薦に多大な貢献をいただいた東北大学名誉教授の神山新一会員に感謝状を授与する件につき、事務局から紹介がありました。総会終了後、新役員からなる第1回理事会が開催され、小林会長ほか、副会長、専務理事、常務理事が選出され、また、代表理事の代行順位、専務理事、常務理事の報酬等が、承認されました。



会長就任に当たって

小林 喜光 / YOSHIMITSU KOBAYASHI

6月2日に日本工学アカデミーの会長に就任いたしました。副会長、理事、委員長の皆様方のご協力を得て、日本工学アカデミーの一層の発展に尽力して参りますので、宜しくお願いいたします。

日本工学アカデミー会長に就任するにあたり、我々を取り巻く世界の現状を把握し、その中で日本工学アカデミーが果たすべき役割について、私の考えを述べさせていただきます。

現代社会では「ポストグローバル化」「デジタル化」「ソーシャル化」の3つの潮流が生じており、我々を取り巻く環境は急激に変化し続けています。英国のEU離脱、GAFやBATを中心にしたグローバルプラットフォーマーの台頭、AIや量子技術の急激な進歩など、時代はまさに革命期に突入していると言えるでしょう。そして、気候変動、水・食料問題、海洋プラスチック問題などがあり、そのうえ昨今の新型コロナウイルスの世界的大流行により世界経済は大きく低迷し、生活様式も大きく変革しようとしています。このように、我々の目の前には解決すべき地球規模の課題が山積されています。



日本工学アカデミーは「人類の安寧とより良き生存のために、未来社会を工学する」を基本理念と定め、工学及び科学技術全般の進歩及びこれらと人間及び社会との関係の維持向上を図り、我が国及び世界の持続的発展に資することを使命とする公益社団法人であり、言わば工学・科学技術全般の幅広い知識を有する専門家集団です。多様な会員の皆様の英知を結集して共創・協働することで、これらの地球規模の各種課題の解決に向けた大きな貢献ができると確信しています。そのために、日本工学アカデミーとしての以下の活動を推進していきたいと考えています。

- ①工学・科学の広範な知見に基づいて、羅針盤となる政策提言を発信する。
- ②自然科学と人文・社会科学の垣根をも越えた共創のための場を構築する。
- ③多様な会員の充実を図り、未来社会のデザインに新たな息吹を吹き込む。

私は産業界に身を置き、長年地球との共存を念頭に企業価値を追求してまいりました。残念ながらここ30年間の日本はあらゆる分野で停滞しているにも関わらず、社会はその状況に満足しきっていて、私は「茹でガエルには蛇を」と言い続けてきました。今日では「新型コロナウイルス」が「蛇」になって社会を大きく変えようとしています。このような社会変化を踏まえてこれまで得てきた企業人としての知見を反映しつつ、会員の皆様の積極的なご支援とご協力を賜りながら工学・科学技術全般の発展に尽力し、そして持続可能な社会の実現に向けて貢献していきたいと存じます。

会長職の離任に当たって

阿部 博之 / HIROYUKI ABE

令和2年の総会をもって、2期4年間の会長の任期を終えることになりました。新会長は、小林喜光前経済同友会代表幹事です。今後は名誉会長として、新会長のもとで日本工学アカデミー(EAJ)のために多少なりともお役に立てればと願っています。

ご案内のようにEAJの活動は多岐にわたっています。在任中の実績については「日本工学アカデミー ここ4年間-2016年度から2019年度の自己評価」(理事会資料2020月5月12日)*をご参照いただければ幸いです。道半ばとはいえ、EAJの歴史に残る活性化に努力できたことは、役員、委員はもちろんのこと、会員の知性と積極的関与によるところであり、一緒に仕事をできたことを心から誇りに思います。また事務局の献身的努力にも感謝いたします。この間並々ならぬご支援をいただいた各界の関係各位にも厚く御礼申し上げます。



任期の終わりはCOVID-19の影響の嵐でした。EAJでもオンライン会議が大きい役割を果たすことになりました。

パンデミックが経済、社会に深刻な影響を与えることは周知のことです。しかしながら、今回の対応は各国によって異なるものの、概して準備不十分であったといえます。短期的な経済へのダメージを恐れるあまり、結果としてより大きいダメージを誘引した例が各国で見られました。政治は一般に短期的効果を重視します。もちろん必要なことです。一方大学や公的研究機関には、加えて中・長期的視点が不可欠です。平時の評価を超えた安全保障の役割も忘れないことです。なかでも今後予想される第2波、第3波や新たなパンデミックに向けて、検査・医療・研究体制の抜本的強化が求められます。そのために多額の予算を伴いますが、それよりもはるかに大きい経済効果が期待できるとの分析に目を向けるべきです。

わが国が、専門家グループの科学的助言を政策決定に取り入れたことは進歩です。しかしながら専門家グループが行政と一体となっていることによる限界も見えました。今後の危機に備えるためには、政治から出来るだけ独立して、データに基づく科学的見解に徹することが、助言者である科学者/専門家とグループの第一の役割と責任です。そのための仕組みは政策決定者にとっても有益です。

これからの人類社会の持続的発展にむけて、「テクノロジーと哲学」の在り方などが世界的議論のテーマとしてクローズアップしてきた中でのCOVID-19でした。科学者/専門家集団としてのEAJのさらなる役割に期待を寄せ、離任のご挨拶といたします。

* <https://www.eaj.or.jp/app-def/S-102/eaj/wp-content/uploads/2020/05/eajdoc-jikohyoka-202005.pdf>

INFORMATION

森 英夫 会員
2019年4月4日逝去 98歳
三菱電機株式会社社友、EAJ発起人

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

1943年9月 東京大学工学部電気工学科卒業
1952年12月 工学博士
1969年4月 工業技術院電気試験所長
1970年4月 工業技術院電子技術総合研究所長
1973年1月 日本学会議会員
1981年6月 三菱電機(株)常務取締役開発本部長
1983年6月 同社顧問
1987年4月 EAJ入会

元網 数道 会員
2019年4月5日逝去 87歳
石川島播磨重工(現IHI)

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

1954年3月 東京大学工学部船舶工学科卒業
1985年7月 石川島重工業(株)(現株式会社IHI) 理事・船舶事業本部基本設計室長
1990年6月 同社取締役技術本部長
1993年6月 同社常務取締役技術本部長
1995年7月 EAJ入会
1996年6月 同社専務取締役
1997年6月 同社常任顧問

柴田 碧 会員
2019年11月8日逝去 88歳
東京大学名誉教授

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

1953年3月 東京大学工学部機械工学科卒業
1958年3月 東京大学大学院数物系研究科機械工学専攻修了
1958年3月 東京大学大学院工学博士
1969年4月 東京大学生産技術研究所教授
1987年4月 EAJ入会
1992年4月 横浜国立大学工学部教授

成瀬 淳 会員
2020年3月7日逝去 74歳
元大阪電気通信大学理事長

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

1983年3月 京都大学工学博士
2000年1月 日立データシステム社社長&CEO
2003年1月 日立グローバルストレージテクノロジー社社長
&CEO
2006年4月 日立製作所技師長
2009年4月 岡山大学客員教授
2013年11月 EAJ入会
2014年4月 大阪電気通信大学理事長

大山 昇 会員
2020年4月29日逝去 92歳
元国際電信電話(現KDDI)常務

1950年3月 東京大学第二工学部電気工学科卒
1950年4月 電気通信省入省
1975年4月 国際電信電話株式会社機器施設部長
1983年6月 同社 取締役
1987年6月 同社 常務取締役
1989年7月 EAJ入会

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

終身会員

(2020年7月付)

江木 紀彦
田中 秀雄

※終身会員制について、詳しくは次のURLをご参照ください。 <https://www.eaj.or.jp/?name=keisai>

▶2020年度(令和2年度)会費納入のお願い

6月2日の定時社員総会において、2019年度収支決算の決議と2020年度収支予算の報告が行われましたので、今年度の会費について請求書をお送りさせていただきました。お払込みのほどよろしくお願い申し上げます。

編集後記

社会の姿を一変させてしまうような破壊的技術をゲームチェンジングテクノロジーと称して多くのメディアが話題に取り上げ、人々がそれに突き動かされている時代である。確かに、人工知能やデジタル革命、アバターや超人化、オートノミー、新たな量子技術など、さまざまな分野で有益な革新的技術が次々と生まれつつある。COVID-19を契機にその動きは一層加速されるに違いない。

ただ、物事には常に二面性がある。あまりに速すぎる変化は将来に取返しのつかない重い負の影響をもたらすこともあり得る。工学に携わる者は、視野を広げ、教育や経済の格差、モノ・コト・仕組み・文化の質の劣化、フェイク情報の氾濫と社会の不透明・不安定化、自然循環の乱れ、人の基幹能力の退化、人間不信など、見えざる負の変化の予兆をいち早くつかみ、事態が危険水域に至らないように常に努力を払いつづける必要がある。EAJが果たすべき役割はこれからますます大きくなると思う。

(広報委員会 原 邦彦)